



可児から東京、そして英国へ

日英共同制作公演 という名の冒険 — part.2

足掛け5年の歳月をかけた、アールと英国リーズ・プレイハウスとの日英共同制作公演『野兎たち—Missing People』が2020年3月幕を閉じました。前号では、企画の立ち上げから戯曲開発ワークショップまでの模様をお伝えしましたが、今回は未知なる冒険の後編です。出演俳優オーディションから稽古そして本番までの軌跡をお送りします。

2019年9月

出演俳優オーディションでの運命的な出会い

私たちがこのお芝居で描こうとしたのは、「“個”に生きる現代人の孤独と人々の幸福を問う家族の物語」です。「現代の孤独、家族、幸福とはなにか？」作家のブラッドはこの難題と格闘しながら戯曲の推敲を重ねていました。8月の時点でようやく登場人物となる日本人役5人・英国人役2人のキャラクターが見え、それをもって9月上旬に日本、下旬に英国オーディションを開催することになりました。日本人4人の配役候補はすぐに見つかりましたが、肝心のヒロインとなる早紀子役の候補者探しは難航しました。なぜなら、早紀子役にはヒロインとしての魅力と演技力の他に、英会話力も必要だったからです。結局日本では見つけることができず、残すは英国で活動している日本人俳優を英国オーディションで期待するしかありませんでした。オーディション終了後、現場に立ち会った演出の西川氏と衛館長から、「いい子がいたんだよ！」と待っていた言葉を聞くことができたときは胸のつかえが下りる思いでした。英国人の父親と日本人の母親を持ちロンドンを拠点に活躍している俳優で、名前はスーザン・もも子・ヒングリー。母親の影響で日本語も堪能で、全会一致で決まったとのことでした。

彼女はその後持ち前の明るさで稽古場を引っ張り、両国の俳優陣の橋渡しの存在となっていました。オーディションだからこそ出会えた今回の素晴らしい俳優たち。それは日英共同制作が導いた運命的な出会いだったのかもしれない。



公演中止

森山威男ジャズナイト 2020

9月19日(土) 福祉センター・大ホールを会場に予定しておりました本公演は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送ることと致しました。ジャズナイト20周年の節目の年であったため大変心苦しい決定ではありますが、再び皆さまと熱いセッションを共に楽しめる日が来ますことを切に願っております。



スペシャルコンテンツ
7/1～公開



日英共同制作公演という名の冒険 - part.2

可児市文化創造センター+リーズ・プレイハウス『野兎たち - Missing People』

作：ブラッド・パーチ 訳：常田景子 演出：マーク・ローゼンブラット、西川信廣

【あらすじ】日本人と英国人の国際結婚という状況の中、日本人の家族の息子が失踪という知らせが届く。そこから二つの家族の歯車が狂い始める。文化の違い、結婚の価値観、親子関係など、内に秘めた家族のストレスが水面下から湧き上がり…なぜ人々は孤立し、社会的圧力に押しつぶされるのか。人々にとっての幸せとは何か？を問いかける。

2019年12月 『リーズ稽古』 戯曲が稽古に間に合わない！

稽古1か月前、戯曲はすでに4稿目に入っていました。未だ推敲中で決定稿には至っていませんでした。このような状況で果たして稽古は始められるのか、不安を抱えながら日本チームはリーズへと向かいました。リーズ稽古ではやはり戯曲開発ワークショップの延長線上のような様相で、戯曲に描き切れていない部分を洗い出し、その都度作家に書き足しを提案する日々でした。稽古最終日にどれぐらいの書き足し量になったのか西川氏に確認すると、「1時間半程度の戯曲が、3時間近くなるのではないか。」との事。膨大な宿題をもたらしたブラッドは稽古と並行して推敲を重ねていました。完成戯曲がなければ俳優もスタッフも動きが取れません。そして戯曲以外にも悩みの種がありました。それは、英国式の議論中心（しかも通訳を介した）の稽古です。各場面を論理的に説明しつつ気持ちをやるという作業は、どちらかというと直感的にセリフを捉え稽古で何度も演じながら心の動きを作っていくスタイルの日本人俳優には戸惑いがありました。それでも、1月の可児稽古からはきつと西川氏が日本式で稽古を進めてくれるだろうと淡い期待を胸に、リーズでの稽古を終えたのでした。

2020年1月 『可児稽古』 違いのストレスと市民サポーターの癒し

この戯曲づくり最大の功労者は、翻訳家の常田景子氏です。すでに4稿分もの戯曲を短い締切期限内で、まるで日本人作家が書いたような日本語会話に翻訳してくださいました。12月のリーズ稽古では戯曲の書き換えがあることを見越して同行してもらったのですが、まさか年末年始を返上してまでの作業量になるとは予想もしていませんでした。彼女から5稿目となる翻訳が届いたのが可児稽古2日前。またしてもギリギリ間に合った！

た！」そんな思いで、中部国際空港に着いた英国チームを迎えに行くと、マークが開口一番、「飛行機でたっぷり時間があつたから、5稿にカットや変更の赤を入れておいたよ。」すでに6稿目の作業がブラッドや常田氏を待ち構えていると思うと苦笑いしか出ませんでした。

そして1月8日、市民サポーターも加わり、ホームグラウンドである可児での稽古がスタートしました。リーズで本格的な稽古が出来なかった分、遅れを取り戻そうと仮の舞台セットが稽古場に立て込まれ、想定される小道具も揃え、準備万端です。気になる稽古進行はというと、期待とは裏腹に英国式で進められました。英国では稽古場はあくまでも俳優のための稽古で、テクニカル面は《稽古場》ではなく《劇場の舞台上》で決めていくというスタイル。比べて、日本式の稽古場は、俳優の稽古と同時にテクニカル面も決めていくことで劇場の舞台を使う日数を短くするという作り方をしています。特に今回の舞台は、装置の転換、小道具、字幕、映像などテクニカル・スタッフにとっては決めなければならないことが山ほどありました。この両国の稽古場に対する考え方の違いにより、テクニカルな部分を決めないマークに対して日本人スタッフのストレスは溜まる一方でした。逆にマークにとっても、各プランナーが可児常駐ではないなど、英国とは違う制作環境に神経質になっているようでした。西川氏はそういった状況を察知し、マークと日本チームの間に入り調整役を担っていました。それでも根本的な解決には至らず、ストレスの矛先は巡り巡って制作である私に向かってきました。板挟みになりながら妥協点を見出し調整作業に神経をすり減らす日々が続きました。『野兎たち』は、社会的ストレスが原因で失踪してしまうヒロインの兄・弘樹を探す物語です。「彼はなぜ失踪してしまったのか？社会的ストレスとは？」この作品に通じるテーマを私自身が体験することになるとは…「失踪しないだけで弘樹は実は私自身か、ある

いはみんなそうなのか？」言葉や文化、立場などさまざまな違いから生じるストレスは実は誰もが抱えていて、でも相手と真摯に向き合い、言葉に耳を傾け、理解しようとすることで、解消されていく。今回の稽古場を通じて学んだような気がしました。

そんな私たちの疲れた心を癒してくれたのが、公募で集まった市民サポーターの皆さんでした。優しい笑顔の声掛けや、真心のこもった差し入れが、「応援してくれる人たちがいる」と実感できる時間でした。英国チームも声をそろえて「市民サポーターがいる、こんな温かい稽古場は今までに経験したことがない。」と、その言葉は私にとって最高のご褒美となりました。

2020年2月上旬 『東京公演』 幕が上がらないのでは―焦りの現場

今回の舞台美術を手掛けたのは数々の演劇賞を受賞し世界的に評価が高い、松井るみ氏。彼女とは1年前から構想を練ってきました。焦点となったのは、日本語と英語が飛び交う舞台で、字幕をどのように処理するかということでした。通常であれば舞台美術とは切り離し、舞台の上手と下手の両端に字幕を映す柱を設置するのが一般的ですが、今回は字幕も舞台美術の一部として取り込むプランを採用しました。それは、字幕を映す巨大な縦2本、横2本のLEDパネルの柱のみを舞台セットとするもので、この柱が舞台空間を縦横無尽に動き回り、字幕だけでなく映像も映しながら各シーンを作り出します。シンプルでありつつ言語そのものを大胆に空間の中でデザイン化した、まさに日英共同制作のコンセプトそのものを表現するものでした。

テクニカル面の課題が山積のまま可児での稽古を終え、2月3日から本番の舞台となる新国立劇場に入りました。セットを仕込み、舞台稽古が始まり、いよいよここでテクニカル面の課題を解

消していくはずでしたが、演出面の変更にも次ぐ変更でタイムテーブルは予定を遙かにオーバーしていました。さすがにスタッフに焦りが出始め、また俳優にとっては本番直前に稽古場とは違う動きを求められるなど、「このままでは幕が上がらないのでは…」その言葉が現実味を帯びてきました。そして本番前日、リハーサルを終え翌日のスケジュールの打合せをしている時でした。本番ギリギリまで舞台稽古を優先させたいマークに対して、舞台監督は「ゲネプロ（本番通りに行う通し稽古を優先させたいと、意見が真つ二つに分かれました。再び妥協点を見出し、午前中を舞台稽古に当て、午後にゲネプロ、夜本番というスケジュールに落ち着きました。良い作品をつくるという共通意識のもと、ギリギリの攻防の末ようやく初日の幕を開けることができました。」

幕が上がって数日後、お客様の『野兎たち』を称賛するたくさんの方のツイートをみて、「この声を聞くために5年間、頑張ってきたんだ…」と熱いものが込み上げてくるようでした。作品づくりの最中に西川氏が、「今は生みの苦しみの中にいる」と言っていたのを思い出して、「生みの苦しみが大きいほど、生んだ後の喜びも大きいんだ。」とこれまでの苦労が浄化されていくようでした。

2020年2月下旬 『可児公演』 確かな手応えを携えての凱旋公演

帰る場所から長く離れていればいるほど、帰ってきたときの安心感は大きくなるものです。東京で約半月の間、劇場に缶詰め状態となり生みの苦しみを味わってきた私たちは可児で「ようやくホームグラウンドに帰ってきた」と、心の安らぎを覚えました。また東京公演で作品評価の確かな手応えを感じていたため、気持ちは高ぶっていました。出迎えてくれた市民サポーターの顔もなんだか懐かしく、会つと自然と笑みがこぼれました。そんな温かい空気に包まれて可児公演の幕は

開きました。お客様の反響も大変良く、順調に公演は進んでいるかに見えました。しかし、運命はそう簡単には私たちを前へ進めてはくれず…。このプロダクションにとって最大の敵が足音もなく、じわじわと近づいて来ていたのです。

そのころになると連日、新型コロナウィルスのニュースが世間を賑わせていました。刻一刻と変化する状況の中、各地でイベント中止の動きが広がっていました。そして可児市でも市主催のイベントについての検討会議が開かれました。「千秋楽の2月29日まであと3日間…」皆で祈るような思いで会議の結果を待ちました。「アーラでの公演は3月1日以降中止とする。」公演のできる有難さこれまで経験のない緊張感のなか、可能な限りの感染予防対策を講じて、無事に可児公演を終えることができました。

2020年3月 『リーズ公演』 5年間の集大成、頂上はここまで見えている

3月頭の時点ではアジアでの感染拡大が流行拠点として世界中で騒がれていました。「英国まで行くことができれば公演はできるだろう」そんな思いで、3月7日リーズに向けて出発しました。リーズに到着するとやはり街中はいつも通りの賑わいでした。日本では公演中止の嵐の中、この作品は海を渡ってリーズで公演ができるなんて奇跡的とも思いました。この異国の地で私たちの作品がどのように受け入れられるのか、期待に胸が膨らんでいました。

リーズ公演では本番を回す舞台・音響・照明スタッフ、日本チームから英国チームに入れ替わります。引継ぎを経て、リーズ公演を迎えました。英国では『プレビュー公演』という期間があり、その後マスコミ各社を招待した『プレスナイト』を経て『本公演』となります。プレスナイトでは、演劇評論家らによって作品が星の数で評価されます。その評価を持って本公演が始まるので、私た

ちの最大の関心はこのプレスナイトにあります。プレビュー公演でのお客様の反応は上々、勝負のプレスナイト当日の午後、英首相ボリス・ジョンソンが国民に向け新型コロナウイルス感染対策の声明を発表していました。それを受けてリーズ・ブレイハウスでも対策協議が開かれ、結果説明のため芸術監督のジェイムス・ブライニングがリハーサル前に皆を集めました。彼は私たちの緊張をほぐすかのような笑顔で話し始めました。「英国劇場協議会の要請を受け、今夜からの公演をすべて中止とします。」とても優しい口調で、この衝撃的な決定を私たちへの思いやりと尊敬の念を込めて伝えてくれました。しかし、プレスナイトという最も大切な公演を目前に告げられた突然の中止。ショックで落胆しメンバーの目には涙があふれます。そのような中でも、これまでの功績を仲間同士が讃え合う姿はとても美しい光景でした。ジェイムスがお膳立てしてくれた最後の交流会は、緊張感から解放され、長い間苦楽を共にしてきたからこそ分かち合える心が和む時間となりました。最後まで公演が出来なかった悔しさはもちろんありますが、それに勝って仲間とここまでやってきた自信や達成感が私たちの心を清々しいものにしてしてくれました。

それから数日後には、以前の賑わいは嘘のように消え去り全てが眠ったようなリーズの街に変貌していました。ロックダウン直前の3月21日、日の光を浴びてまぶしく輝くリーズを眼下に帰国の途に就きました。今回の日英共同制作は、私たちにとって『未知なる挑戦』でありました。そして今、一変したこの世の中においても「人々が繋がりが支え合う場をどのように作っていくか」私たちの次なる挑戦はもうすでに始まっています。

事業制作課・澤村



▲ リーズ公演の様子

Photography by Anthony Robling

東日本大震災復興支援
祈りのコンサート
2020
～被災地へ届け、私たちは忘れない～

ご 報 告

2020年3月8日に予定していた『祈りのコンサート2020』は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、個人・団体より寄附のお申し出を頂きました。ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。アーラは今後も『祈りのコンサート』を開催し、被災地支援を続けていきます。

【寄附金額合計 60,000円】

・お客様からの寄附 50,000円 ・可児地区更生保護女性の会 様からの寄附 10,000円

被災地の心の復興のために活動している以下の支援団体へ寄託いたします。

- ・気仙沼地域傾聴ボランティア「こもれびの会」 ・傾聴ボランティア「こころのもり」
- ・傾聴ボランティア大槌「ひまわり」 ・宮古地域傾聴ボランティア「支え愛」
- ・公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター

関連企画 「東日本大震災写真展
～忘れないで 3.11～」



東日本大震災直後から現在に至るまで、被災地を訪問し支援活動をする中で、三浦寛行氏が9年間撮り続けてきた写真を2月22日～3月15日ロビーに展示しました。

館長エッセイ

essay

「引き籠りジジイ」の昼食

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

4月に口腔崩壊とも言える状態を治療するため早稲田大学時代からの歯科医院に通おうと東京に来たのですが、緊急事態宣言となつて北沢の自宅に引き籠り状態になりました。高田馬場の歯科と地元のかかりつけ医に常用しなければいけない処方箋をもらいに行く以外は外出せず、歯科へも公共交通機関を使わずに車で通っている有様です。治療費が1500円程度なのに、駐車料金が2800円という何とも鬱々とする「不条理」。芸術文化振興基金のアーツカウンシルでプログラム・ディレクターをしている妻も在宅勤務になつていて、私を見て「暴走ジジイ」が「引き籠りジジイ」になつてると笑います。

そんな引き籠り生活では、昼食にどうしても麺が食べたくなります。最近はお袋詰めの即席ラーメンに凝っています。今の時期は醤油味の「チャルメラ」にとどめを刺します。むかし子どもの頃に食べた「東京ラーメン」のなつかしさが口の中いっぱい広がるのです。それほど食べたいのならラーメン屋に行けば、とおもいですが、80年半ばくらいまでは店舗がたくさんあつてそれぞれ好みの味の店があつたのですが、下北沢が外から来る人たちの街になつてから、次々に町中華の店が姿を消してしまつて、唯一残っている私の馴染みの町中華は、大学受験時代に夜中3時頃に通つた駅の反対側の「珉亭」くらいです。しかし、年寄りには駅の反対側にラーメン一杯のために歩く勇氣はありません。そこで「チャルメラ」に落ち着くのです。コロナ禍になつて袋麺がとて売れているらしく、ネットに即席麺の売れ筋ランキングがあり、「チャルメラ」は第5位、何と「チキンラーメン」が第3位でした。あの味には「昭和」が潜んでいて、味覚の美味しさとは別の心を充たす「何か」があるようで、順位には納得しています。自粛要請で子どもも家にいるので食費節約もあつて、袋麺が売れるのでしょうか。子どもたちにとっては、コロナ禍の即席ラーメンの味に「なつかしさ」と「コロナ時代」を感じるようになるのかもしれませんが、食とはそんなものですね。

可児市文化創造センター休館中の利用申請について

可児市文化創造センターは、大規模な改修工事を実施するため、現在、休館しております。

【休館期間】 2020年9月30日(水)まで

◎主劇場、小劇場、レセプションホール、会議室(旧控室1)、控室(旧控室2)、演劇練習室、木工作業室は、引き続き改修工事のため 2021年1月7日(木)まで使用できません。

※ 2021年1月8日(金)～10日(日)は、市行事およびメンテナンスのため、一般への貸出はおこないません。

休館中の利用申請は

臨時受付窓口をお願いします

【受付窓口】可児市役所 西館1F 【※土日祝を除く ※7/13(月)～7/20(月)は受付休止となります。】

【受付時間】7/1(水)～7/10(金)および7/21(火)～7/31(金) ⇒ 9:00～17:00、8/3(月)～9/30(水) ⇒ 9:00～12:00

利用を希望する年・月		受付期間(土日祝を除く)
【劇場及びギャラリー等】	【その他の施設】	
2021年4～6月分	2020年7～9月分は休館中のため申込不可	受付中
2021年7～9月分	2020年10～12月分	【調整期間】2020年7月1日～10日 【通常受付】2020年7月21日～

※ お電話での仮予約は、通常受付開始日の翌日からとさせていただきます。 ※ 2021年4月1日以降のご利用から利用料金が変わります。⇒



可児市文化創造センター 【愛称: ala(アール)】

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

✉ info@kpac.or.jp

TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312

▶電話対応 9:00～17:00(土日祝を除く)

(大規模改修工事による休館)

2020年9月30日(水)まで